

防犯マニュアル

放課後等デイサービス ぽけっと

令和6年10月更新

－ 日常の対応 －

下記の通り防犯対策を実施する。

外部からの人の出入りの確認	道路から事業所への入り口(常時)が1つのため、来訪者があれば中から確認することができる。
来訪者の対応	①アポ済の来訪者 ミーティング時に、時間・名前等を職員間で周知共有 ②アポなしの来訪者 名前・要件を確認して管理者へ引き継ぐ ③「トイレを貸し欲しい」などの特定の用件での来訪者の場合 →「障がい児童施設のため、面識のない人に対してパニックなどの恐れがある」と伝えて断ること。また、近隣のコンビニ等を教示すること。
出入口	営業中は基本的に開錠、ただし、児童利用中は常に施錠しておくこと。
見守り対応	①外出活動中は行方不明児童等を出さないことを徹底し、職員の見守り体制を強化する。そのために、職員数と児童数に無理のないような配置を考慮する。 ②車両移動の際には、乗り降りに十分注意するとともに、車両に取り残された児童がいないか、毎回必ず確認する。 ③自宅送迎において、引き受けが保護者以外になる場合、事前に保護者からの報告を必ず受けておき、職員間で共有しておくこと。

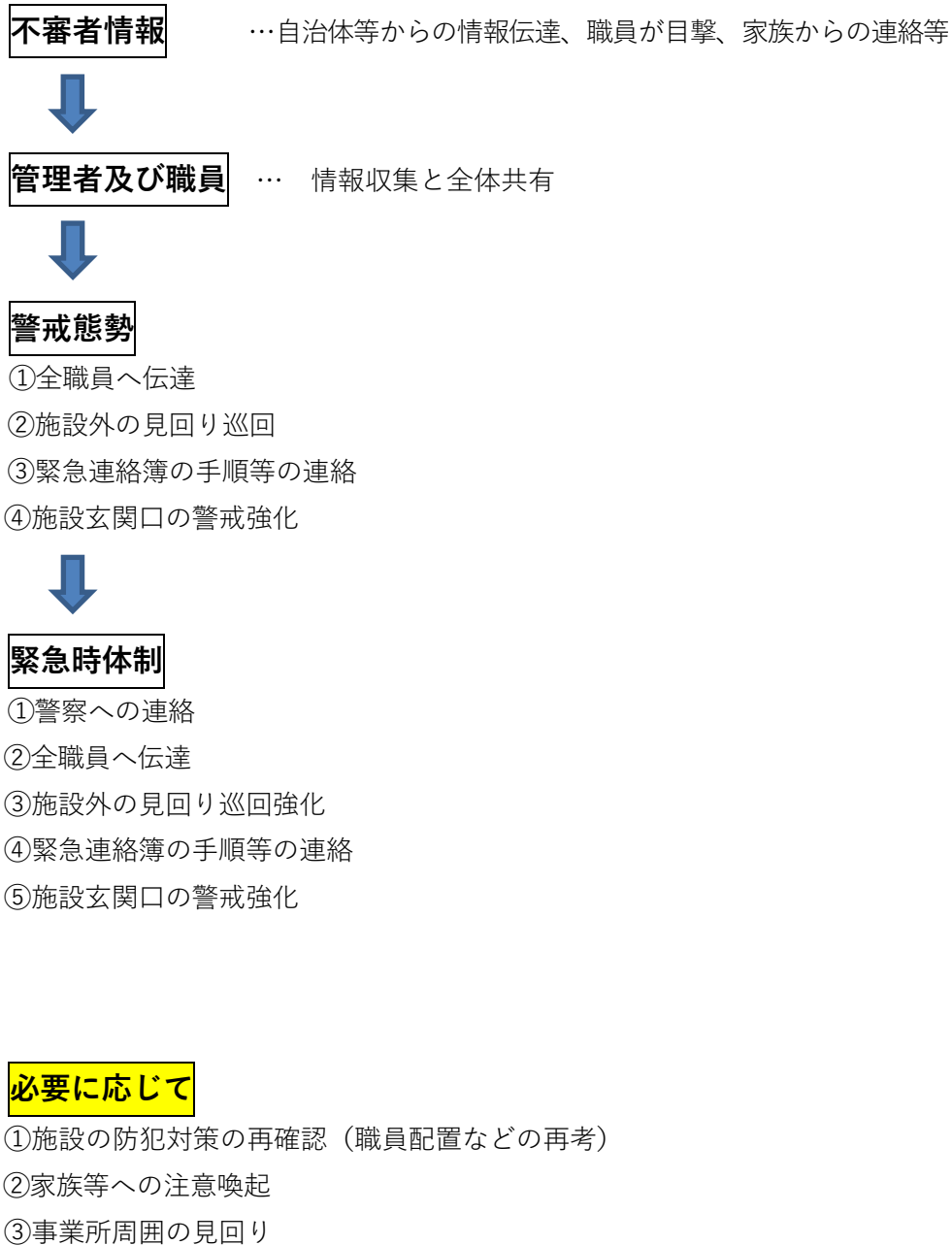
見守り対応	④緊急時(災害時等)には、職員が保護者へ連絡し、保護者による送迎要請を基本とする。保護者との連絡が取れない場合は、その連絡確認が取れるまで事業所待機とする。 ※職員と面識の無い利用者親族に引き渡す場合も考えられるため、親族情報等は事前に職員間で共有しておくこと。
犯罪や事故から身を守るため、施設等内外における活動にあたっての保護者への注意喚起等	保護者への説明時には、過度に不安をあおることなく、的確で丁寧な説明を心掛ける。
緊急時の家族への連絡先・連絡方法	事業所電話・電子メール・ライン等を用いて保護者への連絡を迅速に行う。
消火器	台所・指導室・2階職員室に合計3基設置
施錠	出入り口ドア、指導室ドア(非常口)、男子トイレ外部出入口ドアを施錠

※施設外での活動における「安全確保」について

- ①活動場所の危険個所を職員が把握しておくこと。道路等の安全確認、遊具使用方法など環境に応じて確認を行い、利用児童にも丁寧に説明、注意喚起を行うこと。
- ②施設外活動時は、緊急連絡ができるよう携帯電話を所持すること。
- ③送迎等では安全運転を心掛け、駐停車場所は交通状況を鑑みるとともに地域住民への配慮、防犯上の安全にも細心の注意を払うこと。
- ④送迎の際に保護者が居宅不在であり、保護者と連絡が取れない場合、管理者および事業所へ連絡し送迎の順番変更を行う。同時に、管理者又は他の職員が当該児童の保護者へ連絡を試みる。それでも連絡が取れない場合は事業所へ連れて帰り、事業所で待機しながら保護者への連絡を継続すること。

不審者情報が出た場合の警戒体制

★施設周辺における不審者等の情報入手におけるフロー



不審者が立ち入った場合の体制について

★不審者侵入に対する通報・協力体制

要確認

事業所敷地内へ勝手に立ち入った者、不自然な動作をする者、挙動不審者等は要注意人物として扱い、以下の対応をとる。

初期対応(利用者なし)

- ・複数の職員で確認、職員の対応
不審者を刺激せず1名は管理者に伝達し応援を求め、残りの職員はその場に近づかず見守ること。
- ・単独職員が確認、職員の対応
その場から即座に離れ、同時に管理者に伝達すること。
- ・管理者の対応
管理者のみ要注意人物に対応し、他職員は現場から離れた場所へ退避させること。
対応している中で、凶器等を所持していると判断できた場合、刺激せずにその場を離れ、即座に通報すること。

初期対応(利用者あり)

- ・全職員は利用者(児童)全員の所在を確認、事業所内で安全が確保できる場所に移動させ、出入口をすべて施錠する。その場合、不審者を事業所内部に絶対に侵入させないように留意する。もし事業所内へ侵入した場合は即座に管理者に伝達、管理者が不審者を事業所外部に退出させた後、全出入口を施錠する。
- ・管理者のみが不審者に対応し、他職員は利用者児童がパニック等を起こさないように落ち着かせながら管理者対応を見守る。何かしらのトラブル(暴力的行為、凶器所持)などを確認できた場合は即時に警察へ通報すること。

警察通報110の場合

- ・全職員への通達
- ・利用児童がいる場合は安全確保を第一に行動し、警察到着まで事業所内で待機。
- ・管理者又は職員は不審者の所在を常に確認し、当該相手が一旦立ち退いたとしても、周囲の状況に留意しつつ利用児童の安全を確保する。同時に保護者に連絡し、利用者児童全員が無事に帰宅できるよう送迎体制を整える。警察には管理者が主体となって対応する。

救急要請119の場合

- ・全職員への通達
- ・利用児童がいる場合は安全確保を何よりも優先し行動、救急到着まで事業所内で待機。怪我人発生の場合は応急処置を実施。
- ・保護者に連絡し、利用者児童全員が無事に帰宅できるよう送迎体制を整える。利用児童に怪我人が発生している場合、保護者へ緊急連絡及び応急処置を実施する。病院搬送の場合は、管理者及び職員代表1名が付き添い、保護者及び児童への対応を行う。

関係機関等

【加美警察署】

宮城県加美郡加美町字町裏103-1 TEL：0229-63-2311

【加美警察署 王城寺駐在所】

宮城県加美郡色麻町大上新町170 TEL：0229-65-2240

【色麻町役場総務課 防災安全課】

宮城県加美郡色麻町四竈字北谷地41 TEL：0229-65-2210

【公益社団法人 みやぎ被害者支援センター】

宮城県仙台市青葉区堤通雨宮町4-17（仙台合同庁舎内） TEL：022-301-7840

警察・救急への緊急連絡

施設名	放課後等デイサービス ぽけっと
住所	宮城県加美郡色麻町大字上新町41-1
電話番号	0229-87-8866
利用定員(1日あたり)	10名
防犯対策責任者	清水剛

通報例：

□119番_事件・事故のとき（火事の場合）

火事ですか、救急ですか？	「火事です」
場所はどこですか？	「加美郡色麻町大字上新町41-1 放課後等デイサービスぽけっとです」
何が燃えていますか？	「〇〇付近が燃えています」
逃げ遅れた人はいませんか？	「いません。児童、職員が〇名います」
電話番号とお名前は？	「0229-87-8866 私は〇〇です」

□110番_事件・事故のとき（不審者発見または侵入）

事件ですか、事故ですか？	「事件です」
どういう状況ですか？	「今、不審者が事業所の中に入ってきました」
場所はどこですか？	「加美郡色麻町大字上新町41-1 放課後等デイサービスぽけっとです」
あなたは当事者ですか？ 目撃者ですか？	「当事者です」
〇時△分ごろの発生ですか	「●時▲分ごろの発生です」
何分くらい前の出来事ですか？	「●分前の出来事です」
電話番号とあなたの名前は？	「0229-87-8866 私は●●です」

利用者児童及び職員の避難誘導

(1) 地震・火災等の災害時

- ①指導訓練室及び多目的室での活動中に災害発生の場合、職員は利用児童の安全を確保し、現在位置から近い非常口(玄関または指導室内の非常口)へ児童を誘導し、速やかに事業所外部へ避難する。その後、職員が児童の安全を確保しながら、近隣にある色麻町北大集会所まで車両または徒歩にて避難する。
- ②管理者は職員及び児童全員が避難するまで災害対応(初期消火、破損個所の確認等)を行う。管理者は全職員及び児童全員の避難を確認し、災害初期対応が終了した後、所定の避難場所に向かう。

(2) 不審者侵入時（危害を加えられそうな状態及び警察通報後）

- ①職員が玄関及び他非常口をすべて施錠し、指導訓練室及び多目的室に入り、室内ドアを閉める。その後、各室内の窓から事業所外部に避難するが、この場合、職員1～2名が最初に外に出て、室内職員から利用児童を受け取ること。全職員及び児童が事業所内から避難した後、車両によって現場を離れる(北大集会所等に避難)
- ②管理者は、事業所全体の施錠を再度確認しつつ、全職員及び児童が完全に避難及び警察等が到着するまで、事業所内での不審者対応を継続する。

救急について

応急処置

事故直後は興奮状態であるため、負傷者状況の的確な判断が難しい。救急要請時には、以下のような基本的処置を継続しながら、負傷者の状況を説明しつつ指示を仰ぐこと。

★1 人口呼吸

負傷者が呼吸をしていないようであれば、気道を確保して人工呼吸を行う。

気道を確保するには、負傷者を仰向けに寝かせて片手で負傷者の額をおさえながら、もう片方の指先をあごの先端にあてて持ち上げる。のどの奥が広がり、負傷者の体に息を吹き込むことができる。

人工呼吸を行う手順は負傷者の気道を確保したまま、負傷者の口を自分の口で覆って密着させ、ゆっくりと息を吹き込む。

吹き込んだ息が負傷者の花から漏れ出さないように、負傷者の鼻をつまんだまま人工呼吸を行う

- ・ 負傷者の胸が上がるのが確認できるまで、息を吹き吹き込む
- ・ 約 1 秒間かけて息を吹き込む
- ・ 息を吹き込むのは 2 回まで

★2 心臓マッサージ

脈拍が感じられない場合は、心臓マッサージを行う必要がある。2回の人工呼吸を終えてから心臓マッサージを30回行う。

胸の駐陳（乳頭と乳頭を結ぶ線の中央）に一方の手のひらの付け根を当て、その手の上にもう一方の手を重ねる。そして垂直に体重が加わるように両肘を真っすぐに伸ばし、肩が圧迫する部位の真上に来るような姿勢をして心臓を圧迫する。

心臓マッサージを行うときのポイントは以下の通り

- ・ 胸が 4 ～ 5 c m 程度沈むほど、強く圧迫する
- ・ 1 分間に 1 0 0 回のテンポで圧迫する
- ・ 絶え間なく、3 0 回連続で圧迫する
- ・ 圧迫後は胸が元の高さに戻るように、圧迫を解除する

(a)人工呼吸 2 回、(b)心臓マッサージ 3 0 回として、(a)(b)をセットで繰り返す。

※心臓マッサージと人工呼吸は負傷者が動き出す・うめき声を出すなど、普段通りの息を始めるまで続ける。または A E D を装着するか、救急隊に引き継ぐまで続ける。

★3 止血

負傷者が大量に出血している場合、止血を行う際は血液による感染症を防ぐためにビニール袋などを使用する

【止血方法】

①直接圧迫止血

②関節圧迫止血

関節圧迫止血は難しいため、直接圧迫止血のみを行うものとする。

①直接圧迫止血

まず負傷者の傷口に清潔なハンカチやタオルを直接当てる。そして手のひらで傷口を圧迫して止血を行う。出血している部分を高い位置に持ち上げると止血効果が高まる。

②関節圧迫止血

関節圧迫止血は、傷口の上にある動脈を圧迫し、血液が流れる量を減らす止血。そのため、以下のように部位によって止血方法が異なる。

腕の止血の場合

二の腕の中央を握り、強めに圧迫する。

足の止血の場合

骨盤と股の付け根を結ぶ線上を手のひらで押さえ、肘を伸ばした状態で体重をかけながら圧迫する。